

XVX 寄稿 山陽姓一門の人々―山陽氏十一世藤田長信

人物名を列挙することは、評価の基準をどこにおくかで難しいことですが、通常世俗的な評価の意味で大正以後の各界別に名前を列記しました。

1、政界の人

宮良 長扶―大正九（一九二〇）年石垣村の村長臨時代理者を勤めたり、大正十年石垣村の助役を四力年勤めた。

松田 長茂―昭和二十七（一九五二）年與那国町長。

大濱 長照―平成六（一九九四）年石垣市長に就任、現在に至る。

2、司法界の人

宮良 長辰―那覇市で活躍中。

喜屋武長芳―字新川出身。八重山中第一期（一九四六年三月卒業）。

新城 長栄―八重山高校第二期（一九五〇年三月卒業）。

宮良 皓―現在那覇市で活躍。

安里 剛―字石垣出身。八重山高校第八期（一九五六年三月卒業）、当地石垣市で活躍中。

富永 長健―字新川出身。八重山高校第十一期（一九五九年三月卒業）、千葉県船橋市で活躍中。

3、医学界の人

宮良 長詳―一九三二年「八重山のマラリア防遏に就いて」論文を発表し、マラリア撲滅に多くの示唆を与えた。

松田 信徳―字大川出身。瀬名波を松田に改姓している。東京で活躍した。

新城 長昭―八重山高校第五期（一九五三年三月卒業）。東京都東大和市で新城医院を開業。

宮良 長和―現在、眼科医で活躍。

佐久間長信―八重山高校第十一期（一九五九年三月卒業）、岡山県岡山市で活躍。

佐久間長彦―八重山高校第十五期（一九六三年三月卒業）、愛知県名古屋市中で活躍。

大瀨 長照―八重山高校第十八期（一九六六年三月卒業）、平成六年県立八重山病院長歴任。

新城 雅行―八重山高校第四十期（一九八八年三月卒業）、中部病院の内科で活躍。

新城 宏隆―琉球大学病院の整形外科で活躍中。

4、教育界の人

花城 長昱―字新川出身。一九一〇年、竹富小学校の五代校長。

宮良 長正―字新川出身。一九四三年、最終勤務校は小浜小学校の十五代校長。一九四七年、七代目の新川字会長を歴任。

佐久真長助―字新川出身。一九四三年、最終勤務校は鳩間小学校の校長。一九四八年に八代の新川字会長、一九五〇年・

八重山群島議会議員、一九五六年・八重山教育連合会教育委員長、沖縄遺族連合会八重山支部長を歴任。

宮良 長儀―字新川出身。一九三八年、勤務校は平真小学校の十代校長。石垣市収入役。一九五一年、九代目の新川字会

長を歴任。

破名城長助―字石垣出身。一九四九年、最終勤務校は白保小学校の校長。

仲里 長亨―字新川出身。一九五一年、勤務校は小浜小学校の十九代校長。

破名城長輝―字石垣出身。一九六六年、最終勤務校は石垣小学校の校長。

羽方長次郎―字登野城出身。宮良を羽方に改姓。最終勤務校は野底小学校の校長。

宮良 長義―字大川出身。一九四六年、黒島小学校の十五代校長。

糸洌 長良―最終勤務校は壺屋小学校の校長。

破名城長正―字石垣出身。最終勤務校は川平小学校の校長。

宮良 長廣―字大川出身。沖縄県教育長後、最終勤務校は那覇商業高校の校長。

藤田 長信―字石垣出身。一九七九年、最終勤務校は登野城小学校の校長。後に石垣市教育委員会教育長を歴任し、後に字石垣の字会長を歴任。

に字石垣の字会長を歴任。

安谷屋長也―字登野城出身。沖縄県少年少女合唱連盟理事長を歴任。一九七七年、与儀小学校の校長。

石垣 長三―字新川出身。最終勤務校は西原高校の校長。

大浜 長義―字登野城出身。最終勤務校は八重山養護学校の校長。

国吉 長庸―字新川出身。最終勤務校は石垣小学校の校長。後に二十六代目の新川字会長を歴任。

徳山 長秀―字石垣出身。最終勤務校は中部農林高校の校長。

糸洌 長幸―最終勤務校は小祿中学校の校長。

糸数 長芳―字新川出身。最終勤務校は首里東高校の校長。

新城 長有―字石垣出身。琉球大学農学博士・雄性不稔稻で世界的に有名。

大浜 義直―字大川出身。最終勤務校は八重山農林高校の校長。

新城 康治―字石垣出身。最終勤務校は竹富小中学校の校長後、県八重山教育事務所長歴任。

渡久山長輝―字大川出身。現在、中央教育審議会委員で活躍中。

瀬名波長宏―字登野城出身。最終勤務校は宮古工業高校の校長。

安室 肇―小浜出身。最終勤務は沖縄県教育長。

新城 敏男―字石垣出身。名桜大学教授・歴史研究で活躍中。

小嶺 長正―与那国出身。最終勤務校は北部農林高校の校長。

5、音楽界の人

宮良 長秀―字石垣出身。『五世長真小宗』家譜の九世長秀の項のなかの「覚」によると一八四〇年、二十九才の仮若文子るとき義村王子宅で歌三味線を演じ、翌年勤星賞八拾日の功労彰を賜っている。その後新川目差に任じられている。

宮良 長佳―字新川出身。一八八二年カタカシラの結いに宮良仁也を称し、先師・小浜与人で翁長英暢（一七七一―一八一〇年）の流れをくむ八重山絃歌の修練につとめ同絃歌を波照間孫講、宮良長次に伝えた。

宮良 長次―字新川出身。八世大濱仁也長恭の四男として生まれ、先師・小浜与人英暢の流れをくむと思われ、宮良長佳より八重山絃歌を学び修練につとめ後輩の浦崎永好、糸数長次、宮良長達、佐久真長吏、富田孫伴らに伝授した。ちなみに、近代音楽家・宮良長包の叔父。

小渡 長知―先師・喜舎場英整に師事して八重山絃歌の修練につとめ、これを後輩に伝授した。

神山 長初―字大川出身。十二世、太鼓技能保持者。

宮良 長包―近代音楽家として活躍した。

渡慶次長智―字石垣出身。舞踊勤王流で八重山舞踊保存・普及・発展のために尽くした。

漢那 長助―字新川出身。大浜安伴、南風野英三らと安室流協和会を結成し民謡の普及に努めた。

糸洌 長良―学校音楽教育に尽くした。学校校歌の作曲を数校。八重山古典民謡の研究と普及に尽力した。

仲程 長元―字石垣出身。安室孫師の弟子の一人で漢那長助、大浜安伴らと普及に尽くした。

仲程 長好―字石垣出身。八重山古典音楽大浜用能流と野村流古典音楽の師範で活躍した。

大浜 長栄―字大川出身。琉球音楽笛の演奏者。国指定無形文化財「組踊」の(笛)の技能保持者であり安富祖流伝統舞

踊の(笛)の技能保持者であった。

神山 長喜―字大川出身。一九五八年、八重山古典音楽安室流保存会の発足に参加。安室流師匠で活躍した。

渡久山長宣―字大川出身。一九五八年、八重山古典音楽安室流保存会の発足に参加。安室流師匠で活躍した。

東 永一―字石垣出身。一九六九年、安室流保存会に参加。師範大浜賢扶の門弟で活躍。字石垣古謡保存会会長をし

ながら、地元伝承の古謡の保存・推進に努めた。

玉代勢長傳―字石垣出身。県指定無形文化財八重山古典民謡技能保持者。八重山古典音楽安室流保存会の顧問。

宮良 長定―字新川出身。八重山古典音楽安室流協和会の師範で活躍。沖縄県教育委員会より沖縄県指定無形文化財八

重山古典民謡の保持者としての認定を受ける。

宮良 長忠―字石垣出身。八重山古典民謡保存会や野村流古典音楽保存会の師範。那覇市で活躍。

宮良 長久―字石垣出身。八重山古典民謡保存会の元顧問。

大底長三郎―字新川出身。八重山古典音楽安室流協和会の師範で活躍中。

糸洌 長章―字石垣出身。八重山古典民謡保存会教師、八重山横笛の会に所属。

黒島 章―字新川出身。八重山横笛の会に所属。八重山古典民謡保存会師範で活躍中。

添盛 長詳―黒島出身。現在、八重山古典民謡保存会教師として那覇市で活躍。

豊見本 健―字石垣出身。八重山古典音楽協会、琉球民謡協会八重山支部に属し活躍中。

仲盛 長儀―小浜島出身。八重山古典音楽安室流協和会の教師として小浜で活躍。

仲盛 長美―小浜島出身。八重山古典音楽安室流協和会教師、沖縄芸能連盟・琉球古典音楽安室流絃声会に属し活躍。

宮良 長克―字新川出身。八重山古典音楽安室流協和会の教師で活躍。

宮良多鶴子―波照間島出身。ソプラノ歌手として活躍中。宮良長包音楽を世に広く紹介。

6、美術界の人

宮良 長良―一九一八年生まれ、八重山で活躍した。

宮良 長明―一九四八年生まれ、現在八重山で活躍中。

宮良 長典―一九五〇年生まれ、現在八重山で活躍中。

7、体育・スポーツ界の人

佐久間長勇―八重山陸協長を勤め、沖縄県体協長を受賞。

宜寿次長章―陸上の短距離で活躍していた。

石垣 長夫―八重山体育協会副会長。三代・五代の八重山野球連盟の会長。戦後の野球発展に尽くした。

安谷屋長明―四代の八重山野球連盟会長。戦後の野球発展に尽くした。

安里 長行―六代の八重山野球連盟会長。戦後の野球発展に尽くした。

石垣 長二―野球発展に尽くした。

宮良 長和―野球発展に尽くした。

瀬名波長宏―野球発展に尽くした。

8、官界の人

神山 長詳―字大川出身。山陽氏十二世、県出身初代近衛兵・県出身高等官初代地方警視（県出身初代那覇署長）で活躍をした。

宮良 長詳―一九四五年の八重山郡民大会では、自治会長に選任され荒廃した郷土再建に努め、米軍政権下における初代八重山支庁長に任命された。

瀬名波長宣―字登野城出身。一九〇三年、石垣島測候所雇員を振り出しに退官までの四十六年間に気象人として気象業務に専念。傍ら自然や人文についても研究した。『八重山のことわざ』（一九六六年）、『八重山小話―その自然と言語習俗』（一九七三年）の著作のほか、論文「石垣島の盆行事」（一九三四年）などがある。

宮良 長義―字大川出身。一九六八年十二月―一九七二年四月まで琉球政府八重山支庁長に任じられた。

東 清志―字石垣出身。那覇税務署等歴任後、一九六一年八月―一九六三年六月まで沖縄県八重山支庁長歴任。

真玉橋長秀―字新川出身。電電公社八重山局長として活躍した。

森山 長雄―字新川出身。大蔵省銀行局金融検査官。一九七三年、東京八重山芸能保存会会長、一九七八年、東京八重山郷友会会長で活躍した。

真玉橋長紀―字新川出身。与那国島測候所長の後、三十五代目の新川字会長として活躍中。

神山 長蔵―字大川出身。一九九一年四月―一九九四年三月まで沖縄県八重山支庁長に任じられた。

真玉橋長俊―沖縄県教育庁参事として活躍した。

屋嘉部長市―字新川出身。沖縄県環境部長として活躍した。

9、実業界の人

神山 長意―字大川出身。山陽氏十二世、八重山群島政府立発電所の初代所長で活躍した。

糸洲 長勝―字大川出身。東運輸株式会社を創立し、取締役社長として活躍した。

真玉橋長要―日新産業株式会社を創建。石垣市教育委員、石垣市監査委員長を歴任。

宮良 長欣―字新川出身。八重山日報の社長で活躍した。

宮良 長芳―琉球新報開発会社の社長で活躍した。

真玉橋長完―字新川出身。真玉橋材木店の経営者として活躍中。

糸洲 長勇―字大川出身。八重山毎日新聞社の社長後、東バス株式会社社長で活躍中。

漢那 長委―八重山農林高校第十七期（一九五七年三月卒業）。石垣島製糖株式会社（代表取締役）現職で活躍中。

宮良 健典―字大川出身。琉球新報編集局長（常務取締役）現職で活躍中。

以上述べたが、その他の業界について詳細に記述が出来ず粗漏のそしりは免れずお許しを乞う。

山陽姓一門会の歴代会長

初代 漢那長祐

二代 東 永正

三代 瀬名波長宣

四代 大浜長位

五代 佐久真長助

六代 漢那長助

七代 新城長伸

八代 東 永一

九代 玻名城長方

十代 玻名城長正

十一代 瀬名波長宏